

タッチタイピングの練習

ホームポジションと各指の分担



タッチタイピングとは、キーボードを見ないで、右手の指と左手の指の各指が担当するキーを、あらかじめ指（体）で覚えてしまう打ち方のことです。青色で囲まれた8個のキーは、ガイドキーあるいはホームポジションといい、右手の人差し指をJ 左手の人差し指をFに置いて、8本の指が自然に青色のキーの上にもどっては、上の段・下の段のキーへ動いては戻る「基準の場所」です。多くのキーボードのJとFのキーには指先で感じられる凸があります。

それでは、MS-IME ツールバーの「あ」をクリックして、全角英数モードにします。ガイドキーの位置に指を置いて、A の段を、キーボードを見ないで打ってみましょう。

```
as d f j k l ; as d f j k l ; as d f j k l ; as d f j k l ;
; l k j f d s a ; l k j f d s a ; l k j f d s a ; l k j f d s a
j k l ; f d s a j k l ; f d s a j k l ; f d s a j k l ; f d s a
a s d f ; l k j a s d f ; l k j a s d f ; l k j a s d f ; l k j
j f j f j f j f k d k d k d k d l s l s l s l s ; a ; a ; a ; a
j k j k j k j k f d f d f d f d j k j k f d f d j k j k f d f d
a s a s a s a s ; l ; l ; l ; l a s a s a s a s ; l ; l ; l ; l
```

```
k a k a k a k a a k a k a k a k a k a k a k a k a k a k a k a
s a s a s a s a a s a s a s a s a s a s a s a s a s a s a s a
l a l a l a l a a l a l a l a l a l a l a l a l a l a l a l a
d a d a d a d a a d a d a d a d a d a d a d a d a d a d a d a
j a j a j a j a a j a j a j a j a j a j a j a j a j a j a j a
```

作成：石田みや子

- 母音の練習 MS-IME ツールバーをひらがなモードに戻して練習します

ああああああああああ あああああああああ あああああああああ あああああああああ
えええええええええええ おおおおおおおおお おおおおおおおおお おおおおおおおおお
いいああう ああうええ おおええああ ええああう ああうええ
あいうえお あいうえお あいうえお あいうえお あいうえお あいうえお
あえいうえおあお あえいうえおあお あえいうえおあお あえいうえおあお

※ 打ち間違えた文字の消し方……カーソルの左側の字→Back Space キー

カーソルの右側の字→Delete キー

※ ひらがなを入力したら、Enter キーで確定します。スペースキーで間をあけます。

- 50音の入力練習をしよう
- 濁音と半濁音の練習をしよう
- 拗音 きゃきゅきょ しゃしゅしょ ちゃちゅちょ にゃにゅによ ひゃひゅひょ
みゃみゅみょ りゃりゅりょ ぎゃぎゅぎょ じゃじゅじょ びゃびゅびょ
ぴゃぴゅぴょ
- 小さい字 あいうえお つやゆよ
- 促音の入力 につき n i k k i のように、小さい っ の後ろにくる子音を2
度重ねて打つ。 につきの場合は小さい っ の後ろは K です
- カタカナの練習 普通に打って、スペースキーで変換する。 F7 キーを押すこと
で強制的にカタカナに変えることができる
- 漢字に変換 ひらがなで入力したら、スペースキーで変換候補を出し、目的の
漢字（もしくは変換候補の番号）を選んでエンターキーで確定する
- 文字や文の区切りが意図する場所と異なるとき
例： 私は医者に行く → 私歯医者に行く
 - ◎ スペースキーで文節の区切りが異なる場合の「0」候補を選ぶ
 - ◎ あるいは、Shift キーを押しながら矢印キーで文節の区切りを変えて変換
する。 例: わたしはいしゃに → わたしはいしゃに(シフト + ←)
- アルファベットの入力
 - ◎ (日本語入力のまま) アルファベットキーを入力した状態でF9キーを押して変換
1回押すとすべて小文字・2回すべて大文字・3回 top だけ大文字 (循環する)
 - ◎ Shift キーを押したままキーを打つと、アルファベットの大文字が
打てる。すべて大文字の場合は Shift を押したまま。小文字に変え
たい時は Shift を離してキーを打つ。その次につづけて日本語に
変えたいときは、Shift キーをもう一度押すと、ひらがなに戻る。

文章の入力練習

このように考えれば、「個性」は脳でなく身体に宿っている、というのは当然のことです。が、それが現在ではまったく逆転して受け止められている。非常に似た勘違いが、「情報」についての受け止め方でも往々にして見られます。

一般に、情報は日々刻々変化しつづけ、それを受け止める人間の方は変化しない、と思われがちです。情報は日替わりだが、自分是不変、自分にはいつも「個性」がある、という考え方です。しかし、これもまた、実はあべこべの話です。

少し考えてみればわかりますが、私たちは日々変化しています。ヘラクレイトスは「万物は流転する」と言いました。人間は寝ている間も含めて成長なり老化なりをしているのですから、変化しつづけています。

昨日の寝る前の「私」と起きた後の「私」は明らかに別人ですし、去年の「私」と今年の「私」も別人のはずです。しかし、朝起きるたびに、生まれ変わった、という実感は湧きません。これは脳の働きによるものです。

脳は社会生活を普通に営むために、「個性」ではなく、「共通性」を追求することは既に述べました。これと同様に、「自己同一性」を追求するという作業が、私たちそれぞれの脳の中でも毎日行われている。それが、「私は私」と思い込むことです。こうしないと、毎朝毎晩別人になっていては誰も社会生活を営めない。

では、逆に流転しないものとは何か。実はそれが「情報」なのです。ヘラクレイトスはとくに亡くなっていますが、彼の遺した言葉「万物は流転する」はギリシャ語で一言一句変わらぬまま、現代まで残っている。彼に「あなたの“万物は流転する”という言葉は流転したのですか」と聞いたら何と答えるのでしょうか。

このように永遠に残ってしまう言葉を情報と呼びます。

—養老孟司「バカの壁」より—

737 文字

山路を登りながら、こう考えた。

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。

住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生まれて、画が出来る。

人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。矢張り向う三軒両隣にちらちらする唯の人である。唯の人が作った人の世が住みにくいからとて、越す国はあるまい。あれば人でなしの国へ行くばかりだ。人でなしの国は人の世よりもなお住みにくかろう。

越すことのならぬ世が住みにくければ、住みにくい所をどれほどか、くつろげて、東の間の命を、東の間でも住みよくせねばならぬ。ここに詩人という天職が出来て、ここに画家という使命がくだる。あらゆる芸術の士は人の世をのどかにし、人の心を豊かにするが故に尊い。

—夏目漱石「草枕」冒頭—

366 文字

作成：石田みや子

長文の入力練習

政府の司法制度改革推進本部は29日、国民が重大な刑事事件の裁判に参加する「裁判員制度」の骨格案を公表した。この骨格案は、開会中の国会に来月提出する法案の原形となるもので、人数構成は自民・公明両党の合意に基づき、「裁判官3人、裁判員6人」を原則とし、条件によって「裁判官1人、裁判員4人」の審理も選択できることにした。裁判員は、選挙権を持つ20歳以上の男女から、くじ引きで選ばれる。

推進本部は法案提出までに、制度を広く国民に知らせる準備期間の長さや、守秘義務違反などに対する罰則の法定刑を決める。野党第一党の民主党は「裁判官1人、裁判員10人程度」とする案をまとめており、論戦の舞台は国会に移る。

骨格案によると、裁判員制度の対象事件は、法定刑が死刑か無期懲役（禁固）を含む事件か、故意の犯罪で人を死亡させた事件。裁判員が、裁判官や他の裁判員と行った評議の内容などを漏らした場合は、懲役刑か罰金刑が科される。

また、「裁判官1人、裁判員4人」の審理が可能なのは、被告が起訴事実を認め、検察、弁護側に異議がない場合で、裁判官が事件の性格なども考慮して判断する。

推進本部の試算によると、事件ごとに裁判員6人、裁判中に欠員が出た場合の補充裁判員3人を選ぶと仮定し、さらに、辞退などを見込んでその5倍の候補者を集めるという条件を付けた場合、裁判所に呼ばれる裁判員候補者は年間約12万人と推定されるという。

裁判員制度については推進本部が昨年3月、議論のたたき台となる政府試案を公表。さらに、昨年10月には政府の検討会の座長を務める井上正仁東大教授が「裁判官3人、裁判員4～6人」などとする座長案を示した。しかし、裁判官と裁判員の人数構成を巡り、法曹界などの意見が鋭く対立、最終判断は与党調整に委ねられ、今月26日に合意が成立した。

また、推進本部は29日、検察側による証拠開示の拡大などを図る刑事手続きの改革や、検察審査会の議決に法的拘束力を与える制度改革の骨格案も公表した。これらの関連法案も今国会に提出される。

—読売新聞 2004年1月30日 朝刊より—

868文字

【参考資料】

- ・ IT講習支援サイトなるほどネッ <http://www.naruhodo.net/it/index.html>
- ・ 暮らパソネット：キーボード <http://www.kurapaso.net/keyboard/index.html>
- ・ イータイピング・ビジネス <http://www.nextet.net/e-learning/e-typing/typing.html>
- ・ なにしるパソコン <http://www.724685.com/type/index.htm>